

相棒 あなたの



生野高校写真部 × 広報まつばら

お客のような家族のような

「ちょっとご飯食べていこ」そう
 いて、お客さんが気軽に食事と音
 楽を楽しむ、そんな店にしたかった
 と元治さんは言う。ケーズツリーは、
 昼はランチ、夜はライブ&バーで、
 食事とお酒、音楽が楽しめるよう
 になっている。夜になると仕事を終え
 た大人たちが、心とお腹を満たすた
 めやってくる。自分たちの好きな音
 楽を、好きなときに好きなだけ演奏
 し、聴き、楽しむ。まるで家族のよ
 うなメンバーたち。お店に集まる人
 たちは、協力してお店のカレンダー
 を作ってしまうほど仲が良い。イベ
 ントもお客さんがスタッフのよう
 になって一緒に行く。「ボクが疲れて
 る時は、お客さんが気を使って自分
 でビール出すねん」と元治さんは楽
 しそうに笑う。

おいしい食事を提供するため、ミ
 ンチの部位や配合にこだわり、名物
 のハンバーグを作った。その材料の
 仕入れも仲良くなったお客さんか
 らだと言う。そのほかのメニューも、
 常にお客さんの要望を取り入れ、実
 に多彩だ。

「お客さんの反応、自分の成果が
 ダイレクトにわかるから、喜んでも
 らえたと実感出来たとき、涙が出る
 ほど感動する。だから、店を大人た

ちの癒やしの場にするための作業は手
 抜きできない」元治さんの言葉に力が
 こもる。メニューを進化させ続け、楽
 器の調節をして、楽しい企画も考える。
 自分で全てを準備するのはすごく大変
 で時間もかかる。それでも「お客さん
 が楽しんで帰ってくれるだけで全て吹
 き飛ばしちゃう」らしい。

「相棒は、お客さん」この一言に、
 この店の雰囲気、元治さんの思いが全
 て現れている。

自分の「好き」を忘れない大人たち
 が「大人の青春」をしにくる場所のよ
 うなケーズツリーは最初、私にとって
 非日常だった。しかし、本当に楽しそ
 うに話す元治さんと話をしていくうち
 に、私もお客さんとして、家族として
 この店の仲間に入りたくなった。いつ
 かここで音楽をつまみに、お酒や食事、
 会話を楽しみたい。

きっと一度入ればこの場が日常にな
 り、知らず知らず足運んでしまう、
 そんなお店だ。

文 室山理奈（一年）



人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野
 高校写真部の皆さんと一緒に、そんな誰かのかけがえのない
 「相棒」を紹介します。第25回目は、高見の里にある
 ライブ&バー、「K's2」オーナーの友田元治さんです。

※今回広報まつばらに載らなかった写真部が撮影
 した写真は市ホームページで見ることが出来ます。

